令和４年度

「運営に関する計画」

大阪市立大和川中学校

令和４年４月

大阪市立 大和川中学校　令和４年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、今年度創立 50 周年を迎える学校である。数年前に学校の秩序が乱れ、大きな学校崩壊を経験した。学校再建として大阪市教育振興計画の第 1 ステージ（平成 25 年度から 28 年度）の 27 年度より「秩序構築」をテーマに「時間を守る、ルールを守る心の育成」を進めた。新たに学校行事の取り組みとして 1 年生入学時に宿泊オリエンテーションを取り入れ「**時を守り、場を清め、礼を正す**」を指導の柱として教職員一丸となって進めてきた。その結果、年々生徒の規範・規律意識も高まり、生徒は安定した状況で学校生活や落ち着いた授業を取り戻すことができている。取り組みから８カ年を経て、学校が安心して安全に生活できる学校へと大きく変わることができた。現在は、大和川中学校の教育活動の柱として取り組みを継続している。

生徒アンケートの「学校のきまり・規則を守っていますか」（96%）と指導がしっかりと浸透してきた。しかし、将来の夢や希望についての目標設定について「将来の夢や目標を持っていますか。」（69%）と低い。また、学習習慣についても「自分で計画を立てて勉強をしていますか」（64%）で、家庭での学習習慣の定着していない生徒が多く、基礎学力の向上までには、今一歩及んでいない。29 年度から取り組んだ第 2 ステージ（平成 29 年度から平成 32 年度）では、各教科で教育ＩＣＴを活用した授業づくりを始めた。令和２年度は、情報教育全国大会大阪大会の研究発表校として３年間取り組んできた教育活動を発表した。

大和川中学校が「安全で安心して集団生活を送ることができる」最高の学びの場を構築する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和７年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。

○令和７年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を令和３年度より 90%以上にする。

○令和７年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和３年度から５ポイント増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和７年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている自分には良いところがありますか」に対して、肯定的な回答をする割合を 90%以上にする。

○令和７年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。

○令和７年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答をする割合を 70%以上にする。
○規則正しい生活を身につけている児童生徒の割合（校内　調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日同じくらいの時間に早寝・早起きしていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和７年度調査において、70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】
○生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応のため、また、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、毎日の学習者用端末使用率を令和７年度末において 95%にする。
○令和７年度のおいて「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準１を満たす教員の割合を 90%以上にする。

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を 98%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 60%以上にする。
○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。
大阪市英語力調査におけるＣＥＦＲ　Ａ１レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合（４技能）を 55%以上にする。
○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に 対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を 50%以上にする。

学校園の年度目標

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を 80%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

○学習者用端末を活用した家庭学習を週３回実施する。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合を 85%以上にする。

学校園の年度目標

○学習用端末を活用した家庭学習を週３回以上実施する。

３、本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

平成２７年度より取り入れた１年生宿泊オリエンテーションで中学校生活について、授業の受け方、集団行動などのガイダンスを実施。「時を守り、場を清め、礼を正す」をテーマに児童から生徒への意識改革を行い、授業規律の徹底に努め、また、他者を意識させることで、「ごめんね」「ありがとう」を素直に感じ、表現できるように導き、身近な平和を継続させる、本来のあるべき「安全安心な学校つくり」につながっている。

今年度は「５０周年を祝う会」として、「伝統を受け継ぐ、未来につなぐ」をテーマに生徒主体の体育大会、文化発表会を実施。限られた取り組み期間で、集中して感動ある、また上級生から伝統を受け継いでいくことのできる内容となった。文化発表会では、各学年が「いのち」をテーマとした舞台発表に取り組んだ。

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答する生徒の割合は 97.4%で、ICT を活用したいじめアンケートを毎月実施し、早期対応を行った。学校で認知した案件に対し、対応率および解消率においても 100%であった。また 8 月以降は 0 件で推移している。生徒会が中心となり、いじめ防止に取り組んだことも、生徒が主体的にいじめに対する意識向上になったと考えられる。

○不登校生徒の在籍比率は前年度より 1 割減少、また前年度不登校生徒の改善の割合も前年度より 1 割増加した。今後もリモートや空き教室など活用し、「いつでも、どこでも学べる」環境づくりを推進していく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

今年度も前期・後期の２期制を取り入れ、授業時間を確保、各教科での進度にゆとりを創出。単元テストを行うことで、課題がみえた単元をじっくり取り組む等の基礎力の定着、また学びを深めることにつなげることができる。中間テストに代わるまた到達度テストも実施している。

〇年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを　深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合は 83.9%だった。また校内アンケートで全教科 95%以上の生徒が「授業に一生懸命に取り組んでいる」ことを受け、生徒がより「まなぶ楽しさ」を感じれる授業づくりを推進していく。

〇３年生の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比は、同一母集団において令和３年度より１ポイント向上した。また大阪市英語力調査におけるＣＥＦＲ　Ａ１レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合（４技能)が大阪市平均 55.8%に対し、78.6%と大きく上回った。

〇年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に 対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合が 57.4%、また肯定的な回答の合計は 82.6%と昨年の 38%と比較し、大きく改善した。

【学びを支える教育環境の充実】

個別最適な学びと協働的な学びとなるように、一日の生徒の心の状態の変化や生徒一人一人の学習理解度を可視化のため ICT を活用している。またデジタルドリルの活用で生徒の学習履歴や習熟度の確認も可能。毎日の持ち帰り、課題の家庭学習も定着してきており、保護者の理解を得ている。児童の保護者が付き添いながら…ではなく、生徒の自らまなぶ姿勢を養っている。

〇毎日の持ち帰りは習慣化し、１月末までの時点では、毎週の学習用端末の活用率は 100%。今後は「家庭学習の習慣化」が生徒の自主性・主体的な学びに AI ドリル等の活用を促したい。

〇1 月末時点での状況で、基準２の達成率は 65.5%にとどまった。平均時間外労働時間は、53 時間 40 分(昨年:44 時間 18 分)だった。特に部活動指導に従事している教員の休日出勤や時間外勤務が顕著であり、今年度の学校行事や部活動等の行動制限の緩和で、時間外勤務が増加した理由と考える。また、長期休暇での学校閉庁日の設定など、有休取得促進は図れたが、健康に留意した働き方や健康管理の意識向上を今後も継続して図っていく。

大阪市立大和川中学校　令和４年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 全市共通目標（小・中学校） ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 学校園の年度目標 ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を 98%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策１　安全・安心な教育環境の実現】 いじめ・差別を許さない学校づくり。人権学習の年間計画を立て計画的に実践する。 いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に行うと共に、生徒ボードの活用を高め一人ひとりの生徒情報・心の天気を把握し、共通理解を深め、適切な指導を進める。	B
指標 ： いじめアンケートを年３回実施する。生徒教育相談・保護者懇談を各学期に実施し、いじめの正体の学習を系統的に取り組む。いじめアンケートの検証。 令和４年度末の校内調査において、学校が認知したいじめについては、解消に向けての対応率を１００％にする。	
取組内容②【施策１　安全・安心な教育環境の実現】 宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を進める。新たに不登校になる生徒をうまない、学級・学年集団づくりを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行う。	
指標 ： 校内調査における「学校に行くのが楽しい」の項目の肯定的な回答を令和３年度より５ポイント向上させる。主任会・職員会議・運営の計画等での生徒情報共有。保護者・関係機関との連携。ＳＳＷを中心としたケース会議。 不登校対策委員会（年３回以上）行う。	
取組内容③【施策１　安全・安心な教育環境の実現】 年間指導計画にそって、防災・減災に関する授業（講話、説明、地域防災訓練への参加）や　「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を	

実施する。学校保健委員会での防災学習の継続。 指標 ： 火災想定と地震想定の避難訓練をそれぞれ年１回、救急救命法（AED を含む）の講習を各学年、年間２時間以上実施する。学校保健委員会を中心に生徒活動を進める。住吉区地域防災訓練に全校生徒で参加する。	
取組内容④**【施策２　豊かな心の育成】** 全ての教育活動を通して、「あいさつがしっかりできる、人の立場にたって考え行動できる」人づくりを進める。年間 35 時間の道徳の時間を大切に活用する。読み物資料等を活用し、道徳授業づくりを進める。インクルーシブル教育を進める。 指標：校内調査の「人の役に立つ人間になりたい」80％以上、「家庭や学校、地域ですすんであいさつをしている」95％以上にする。道徳の時間、読み物資料を活用した授業等を行い、年次研修教員中心に公開授業を行う。支援学級在籍生徒を含む支援を要する生徒の状況把握を行う。 取組内容⑤**【施策２　豊かな心の育成】** 社会体験（キャリア教育、職業講話、ボランテイア活動等）実施し、自分の将来を考えるよう指導する。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行う。 指標 ： 職業講話（１年）、職業体験（２年）、高校出前授業体験（３年）、またボランティア清掃（年１回以上）を実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①**【施策１】** いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に実施することができた。いじめアンケートは ICT を活用し、月に１回行っている。生徒教育相談、保護者懇談では、生徒一人ひとりの実態把握、情報共有に努めている。 取組内容②**【施策１】** 宿泊オリエンテーション（４月）を予定通り実施することができた。宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を行っている。また、校内での情報共有、状況に応じて関係機関、ケース会議を定期的に実施することで、きめ細かい生徒指導に努めた。 取組内容③**【施策１】** 定期的に校内での防災訓練（地震・火災想定）を実施した。また、地域と連携し、住吉区の総合防災訓練（１１月）に参加することができた。 取組内容④**【施策２】** 学校生活を通して，他者を意識し、あいさつ活動を大切にした教育活動を行うことに努めた。道徳授業では、読み物資料を活用し多面的に思考できる授業を行っている。7 月には授業力向上のための研究授業・研究協議も行った。チャレンジルームの先生方を中心に要支援生徒の状況把握にも努めた。 取り組み内容⑤**【施策２】** 社会体験の実施については、1 年は 1 月に職業講話を、2 年は 7 月に職業講話、12 月に職業体験を、3 年は 7 月に高校出前授業体験を実施した。また、1，2 年合同で 5 月、11 月に地域清掃を実施した。進路選択への情報提供については、3 年を中心に進路の手引きの配付、進路説明会や進路学習の実

施、説明会の案内などきめ細かく行った。
次年度への改善点
取組内容①【施策１】 生徒一人ひとりの情報を把握し、適切な指導を行うためにも、生徒ボードの活用に関しては、今後も活用を行い教職員での共通理解を深めていく必要がある。いじめについて学校が認知すること、解消に向けての対応を徹底していく。 取組内容②【施策１】 不登校生徒に対しては、チャレンジルームとも連携していく。状況に応じて外部との関係諸機関とも連携し、ケース会議等を定期的に実施していく必要がある。 取組内容③【施策１】 学校と地域の連携、地域と家庭が協力することで、総合防災訓練の内容をより深めることができる。今後も、生徒の防災に対する意識を高めていき、地域の防災活動につなげていく必要がある。次年度も、学校と地域が連携し、地域主体の防災活動では、生徒たちの参加を促せていきたい。 取組内容④【施策２】 校内調査において、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に答えた生徒が 97.4%、「家庭や学校、地域ですすんであいさつをしている」と肯定的に答えた生徒が 89.5%であった。目標達成できている項目もあるが、子どもたちが自発的に行動できるよう、日々の教育活動を行っていく。 取り組み内容⑤【施策２】 今年度は感染症などによる予定の大きな変更もなく、計画通り実施することができた。次年度も生徒の社会体験、進路選択の助けになるよう様々な行事を計画する。

大阪市立大和川中学校　令和４年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	
A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(中学校) ○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 60%以上にする。 ○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。 大阪市英語力調査におけるＣＥＦＲ　Ａ１レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合（４技能)を 55%以上にする。 ○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に 対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を 50%以上にする。 学校の年度目標 ○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を 80%以上にする	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①**【施策４　誰一人取り残さない学力の向上】** ５教科で単元テスト・小テストを実施する。ＡＩドリルの活用や学習の振り返りを早く短い期間で行う事で、早期問題解決につなげる。個別の学習支援を放課後や長期休業中などの生徒自主学習時間を設定し、生徒の自主学習を支援する。 指標：中間テストを廃止し、小テスト・単元テストを実施する。きめ細かな個別の学習支援を行う。放課後の教員による学習サポートを各学年１５回以上実施。	B
取組内容②**【施策４　誰一人取り残さない学力の向上】**国語･数学･英語における個に応じた学習内容および習熟度別授業等を行う。(習熟度レベル上位層の更なる伸長および、下位層の引き上げにむけた取り組みを行う。) 指標：校内調査における「授業はよくわかる」「先生に質問しやすい」の肯定的な回答を 80%以上にする。	B

取組内容③**【施策５　健やかな体の育成】** 令和４年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計点を令和３年度より 1 ポイント向上させる。 指標 ： 体育の授業で（ＴＴ）切磋琢磨できるグループ学習を行う。また、個別の支援学習でタブレットによる動画での視覚的効果で動作確認をする。グループで毎時間授業の振り返りを行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【施策４】 単元テストだけでなく単元のまとまりを振り返る到達度テストを設定し、生徒が自らの学習を振り返り改善することができるようになっている。デジタルドリル等も活用し、個別の学習支援をおこなっている。 取組内容②【施策４】 校内調査（生活アンケート・授業アンケート）の「授業の内容はよくわかる。授業は楽しい。」の項目では 82.6%が肯定的な回答をしている。また「授業でわからないところについて、先生に質問しやすい。」では 77.5%が肯定的な回答をしている。 取組内容③【施策５】 昨年度までは、大阪市平均を下回っていたが今年度は男女ともに大阪市平均を４ポイント上回る結果となった。（男子は４ポイント、女子は 4.4 ポイント上回ることができた。）
次年度への改善点
取組内容①【施策４】 放課後や昼休みの学習サポートにより学習を進めている生徒もいる一方で、学習に主体的に取り組むことのできない生徒の関心を高める授業改善を全教科で強力に進める必要がある。 取組内容②【施策４】 1 年生数学、3 年国語で習熟度別授業を実施した。TT（TeamTeaching）授業は全学年の国数英で実施できている。達成水準を下回っているため、次年度に向け検討を行う。 取組内容③【施策５】 持久走や体力テストに取り組む際は、記録の向上や練習すれば記録が上がるという達成感を味わうことができるような授業展開を心掛け、さらなる体力向上を目指す。

大阪市立大和川中学校　令和４年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（中学校） 【ＩＣＴの活用に関する目標】 〇学習者用端末を活用した家庭学習を週３回実施する。 【教職員の働き方改革に関する目標】 〇「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合を 85%以上にする。 学校の年度目標 〇学習用端末を活用した家庭学習を週３回以上実施する。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	**進捗状況**
取組内容①**【施策６　教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の育成】** ICT を活用した授業づくり（次世代学校支援事業支援モデル校） 指標　：　ICT 活用によりわかりやすい授業づくりを展開し、チャレンジテスト（1,2 年生）における正答率を大阪市平均に近づける。	—
取組内容②**【施策７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】** 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合を 85%以上にする。 指標：「仕事と生活の両立支援プラン」等も踏まえ、性別に関係なく教職員が働きやすい環境づくりを行う。	B
取組内容③**【施策８　生涯学習の支援】** 子ども相談センター、警察機関、区役所（地域子育て支援）やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携を深め、相談活動を進める。また朝読をはじめ、読書文化の継承と更なる推進を図る。（図書館、図書紹介、読書感想） 指標：住吉区学警連絡会等と生徒の情報交換を行い、指導の方向性を確認する。校内での不登校生徒を減らし、暴力行為件数のゼロ件を継続する。全国学力・学習状況調査の「授業時間以外での１日あたりの読書時間 30 分以上」を令和３年度より 10 ポイント向上させる。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【施策６】 　ICT の活用は進み、生徒の ICT 活用能力の向上も十分に見られる。後期には「がんばる先生支援事業」として、スクールライフノートを活用した生徒の見取りについての研修を実施した。 　１，２年生チャレンジテストの結果が出ていないため、届き次第各教科で振り返りを行う。 取組内容②【施策７】 　1 月末時点での状況で、基準２の達成率は 65.5%にとどまった。平均時間外労働時間は、53 時間 40 分(昨年:44 時間 18 分)だった。 取組内容③【施策８】 　学警連絡会にて他校・警察・保護司・子相と情報交換し、校内でも共有している。 今年度は、学警後に生徒指導主事で集まり、各校の校則についても意見交換や他校と合同で地域の巡視も行った。 また、定期的にスクリーニング会議を実施することで区役所（子育て支援）と情報の共有をしている。
次年度への改善点
取組内容①【施策６】 　ICT の活用は進んでいるが、それが授業に効果的に利用できているかどうかの検証が十分になされているわけではない。スクールライフノートを使い、毎回の授業を評価し、改善することがより一層必要となる。 取組内容②【施策７】 　長期休暇での学校閉庁日の設定など、有休取得促進は図れたが、健康に留意した働き方や健康管理の意識向上を今後も継続して図っていく。 取組内容③【施策８】 　学警の情報を、校内研修会等で活用していく。 地域や小学校の巡視等、住吉区の中学校で連携する取り組みを実施していく。

令和４（２０２２）年度

運営に関する計画

（１）教務部
（２）各教科
　①国語科
　②社会科
　③数学科
　④理科
　⑤音楽科
　⑥美術科
　⑦保健体育科
　⑧技術・家庭科
　⑨英語科
（３）生活指導部
（４）健康整備部
（５）道徳委員会
（６）進路委員会
（７）教育課題検討委員会
（８）特別支援教育
（９）ICT 委員会

大阪市立大和川中学校

大阪市立大和川中学校

（１）教務部

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

<table>
<tr><th>取組内容（指標）</th><th colspan="2">達成状況</th></tr>
<tr><td>①教務
教育活動を滞りなくおこなうことができるよう、教務作業を進める。</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="6">B</td></tr>
<tr><td>指標
・年間行事、月中行事、時間割、補欠割り当て、日課表、テスト範囲、テスト計画、テスト監督表、問題解答保管、素点一覧管理、成績一覧管理、チャイム、出席統計、時数統計、転出入処理、生徒名簿作成、要録管理、教育実習、教科書、副読本、視聴覚、進路等についての作業
・上記作業についての知識の伝達</td></tr>
<tr><td>②校務 ICT
校務系仮想 PC 上の作業についての理解を深め、職員全体に共有する。</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>指標
・校務 ICT システムの活用研究
・必要な研修の実施</td></tr>
<tr><td>③カリキュラム調整
教育課程と行事予定について調査と調整をおこなう。
学習指導要領に基づき、各教科の評価基準について調査と検討をおこなう。</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>指標
・四半期ごとの時数確認
・授業時数確保のための時間割調整
・次年度評価基準の作成</td></tr>
</table>

現状と分析
① 教務作業を進めることができている。 ② 校務系のシステムへの理解を深めている。前年度や前期よりも、着実にスキルアップできている。 ③ 教科間での調整をおこなっている。年間指導計画の進捗状況の調査を年度末に実施する。また評価の研修を実施し、職員全体に周知徹底ができた。

次年度への改善点
① 視聴覚担当において、今後数年間を見据えた計画的な割り振りが必要。また人数を増やし、様々な行事に対応できるようにする。 ② 次年度は今年度よりも校務系システムと学習系システムの複合的な作業が増加することが見込まれるため、職員全体へ共有できるように準備を進める。 ③ 評価研修の内容を精査し、４月の年度当初に実施できるようにする。

大阪市立大和川中学校

（２）教科の重点①〔国語〕

目　標：　授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①　【基礎学力の定着】漢字学習に重点的に取り組み、基礎学力の定着を図る。	A	B
②　【言語力の育成】音読やスピーチ、作文の時間を年間１０時間以上取り入れ、言葉の大切さや楽しさを学ぶ。	A	
③　【個に応じた学習指導】提出物の完成を目指し、個に応じて提出を支援する。	B	
④　【自主学習習慣の定着】定期テスト前一週間は始業前や放課後等を活用して、自主学習を支援する場を提供する。	B	
⑤　【習熟度別少人数授業の実施】分かりやすい授業につとめ、教材研究に力を入れる。	B	

現状と分析

①各学年、単元テストや到達度、期末テスト前において小学校での内容の復習も兼ねて漢字プリントや週末課題に取り組んだ。また、文法や語句の問題にも積極的に取り組んだ。
②起承転結が成り立った文章構成や、課題に添った文章作成ができるようになるために定期テスト、単元テスト、また課題として作文指導を行っている。3 学年共に 400 字作文は書ききるよう指導を継続して行った。生徒たちは課題に対して前向きに取り組めた。
③漢字プリントの提出をはじめ、ワークやその他プリントの提出率が上がった。引き続き声掛けをしていく。
④自主的に取り組める課題を年間通じて配布した。基礎学力の定着と共に、自ら考え先取りしてやり遂げる生徒も増えてきた。
⑤引き続きわかりやすい授業を展開できるよう、教材研究に努める。

次年度への改善点

・日々の学習で身についた知識を、ICT を使用してスピーチ等で自分の言葉で表現ができるような取り組みを次年度も継続する。
・漢字検定の合格率向上に向けて取り組みを進める。
・外部テスト等で、漢字についての知識に関わる問題が平均を上回るように引き続き週末課題を実施する。
・週末課題等の質と量について再検討していきたい。

大阪市立大和川中学校

（２）教科の重点②〔社会〕

目　標：　授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①　【基礎学力の定着】 授業準備・規律を徹底し、日々の学習習慣を育成するとともに、個別に最適な学習に取り組むことを目指す。	B	B
②　【発信力の育成】 班活動などのアクティブラーニングを通じ、自ら疑問について調べ、共有し、発信できる学習機会を授業の３割程度確保する。	B	
③　【習熟度に応じた学習指導】定期的に単元テストや小テストを実施し、その内容に合わせた補習や教材提供を行うことで、学年ごとの中央値上昇を目指す。	B	
④　【自主学習習慣の定着】 すららドリルの活用や自主学習ノート、またプリント学習について、すべて自主提出とし、主体的に学習に取り組む習慣の育成を目指す。	B	
⑤　【情報活用能力の育成】　GIGA 端末を活用し、プレゼン作成や調べ学習、パフォーマンステストの場面で、ルーブリックに則した成果物が作成できているかを評価することで、情報活用能力の育成を図る。	A	

現状と分析

① 授業規律を意識し、各学年ともに日々の学習を習慣づけすることに取り組んだ。
② 目標数値通り、対話的な学習や調べ学習などの時間を確保できた。
③ 一定期間での単元テストを実施する（再テスト受験を認める）ことで、中央値について上昇傾向がみられた。
④ 学習成果物については基本的に自主提出を求めており、自主的に学習に取り組む姿勢については一定の効果があった。しかし、提出しない層へのアプローチなど今後に向けての改善点もある。
⑤ 端末利用の頻度は多く、強化学習における基礎的な情報活用能力育成へのアプローチ法としてはまずまずの成果があった。今後、社会科だけでなく教科横断的に取り組んでいくべき課題であると認識している。

下半期・次年度への改善点

・今後も授業規律の徹底を目指す。また、板書や提出物についても計画的に行う。
・主体的で対話的な深い学びに繋がるような授業形態を模索していく。
・自主学習が定着することを目指し、今後も自主課題の提示を行うとともに課題内容の精選を行う。
・ICT 活用に関して授業計画を練り直したうえで、教科において有効な利活用を再度検討する。
・百問繚乱の結果を使って、適切な再テストや補習を行い、学力の向上を目指す。
・チャレンジテスト、授業アンケートの結果にもコミットした授業展開を行う。

大阪市立大和川中学校

（２）教科の重点③〔数学〕

目　標：　授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【基礎学力の定着】 要点をまとめたものを別途用意し、より分かりやすく生徒へ提示することで効率の良い学習へ繋げる。	B	B
②【言語力の育成】 ICT 機器などを活用し、協働的な学びを通じて数学的知識の定着を目指す。	B	
③【個に応じた学習指導】 到達度別学習課題を作成し、個に応じた学習支援を行う。	B	
④【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 基本的に毎時間課題を設定する。	B	
⑤【習熟度別少人数授業の実施】 学習到達度に応じた習熟度２分割授業を適宜行う。	B	

現状と分析
① 要点をまとめたものを資料として配布し、自分の力でも問題を解けるようにした。 ② デジタル教科書や学習者用端末を使用し授業を行った。また、クラウド上で意見交換をさせる取り組みも行った。 ③ 小テストや再テストなどで放課後を利用し、到達度に応じて指導した。 ④ 家庭学習の機会を増やすため、課題を設定した。また、ICT を用いた家庭学習課題を与えた。 ⑤ テスト前など、基礎を振り返るタイミングを設定し、２分割授業を行うことができた。

下半期・次年度への改善点
・ICT を活用した課題配信を増やしていき、家庭学習の機会をさらに与えていく。 ・授業前の時間を活用し、基礎学力のさらなる定着を図る。 ・小テストなど、生徒たちが自分自身を振り返ることのできる機会を増やしていく。

大阪市立大和川中学校

（２）教科の重点④〔理科〕

目　標：　授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
⑥　【基礎学力の定着】 a. 毎時間の授業の目標と既習事項をはっきりさせる。 b. 基礎的な知識の小テストを小単元ごとに実施し、学力の底上げを目指す。	B	B
⑦　【言語力の育成】 生徒の素朴概念を科学概念へと発展させる「発問」を工夫し、授業に組み入れ、発表やグループワークを行う。	B	
⑧　【個に応じた学習指導】 a. 必要に応じて補習を行い、個々の学習進度に対応する。 b. ICT、演示実験などの教材を工夫し、体験的な教材や生徒による観察・実験などを単元毎に実施する。	B	
⑨　【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 家庭において計画的に学習する習慣を身につけさせるため、ICT や問題集を活用する等して単元ごとに課題として提示し、確認する。	B	

現状と分析

①a. 毎時間の授業の導入で既習事項の確認、本時の目標を提示している。
b. 各学年、各単元で小テストと単元テストを実施している。
②理科室での取り組みやデジタル教材の活用により生徒の興味・関心を高め、発表や話し合いを行わせた。また、夏休みの自由研究の他、実験結果の考察や、グループワークで話し合った結果を発表する等の時間を作ることで、主体的に参加する機会を増やすことが出来た。3 年生では現在自然と人間について調べ学習を行っている。
③a. 希望する生徒を対象に、補習を行った。
b. 演示実験やデジタル教材を用いて指導を行っている。
④家庭学習習慣定着のために単元ごとの課題を与え、提出させている。

次年度への改善点

・より主体的・対話的な授業となるよう、様々な場面で発表やグループワークの場を増やし、理科が好きになれる授業づくりをしていく。ICT コンテンツを活用する等、生徒がより興味関心をもてる活動や内容を増やし、精査していく。
・各授業の導入・内容・まとめの組み立て方の見直しを継続し、記憶に定着しやすい授業作りをしていく。
・チャレンジテスト等で点数の伸び悩みが見られるので、基礎項目の単語をまとめさせたり、基礎項目のテストを繰り返すなどの活動を取り入れ、学力向上の下地を作る。このことにより、子どもたちが授業内容を理解しやすくし、主体的に参加しやすい状態を作り上げていきたい。

大阪市立大和川中学校

（２）教科の重点⑤〔音楽〕

目　標：　授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①　【基礎学力の定着】基礎学力を定着させるために、授業内で歌唱、器楽、鑑賞、プリント学習を行い、音楽の基礎的な学力や技術を身につける。	B	B
②　【言語力の育成】　言語活動の育成として、音楽に関する批評文を書かせ、音楽に対する思いや意図を言語で表現できるようにする。	B	
③【個に応じた学習指導】毎時間、歌唱を行い、読譜の苦手意識を克服できるようアドバイスを行う。全員が技術を習得出来るよう、声掛けを行う。	B	
④【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】基本的な知識と技術の定着を図るため、長期休業中に課題をだし、家庭での練習習慣を身につけさせる。	B	
⑤　【規律、習慣付け】毎時間のワークシートや鑑賞文を必ず提出させる	B	

現状と分析

①**【基礎学力の定着】**教科書に記載されている基本的な音楽知識は３学年とも定着しつつあるが、それをうまく表現できる技術をつけることが課題である。
②**【言語力の育成】**１年生の音楽に対する言語力が思っていた以上に高かった。残り２年間で伸ばしていきたい。
③**【個に応じた学習指導】**読譜を苦手とする生徒が多いため、創作活動・リコーダーでは机間指導、グループワークを重点的に行った。
④　**【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】**長期休業課題は、大和川チャンネルも活用しながらほぼ全員がしっかりと取り組めた。
⑤**【規律、習慣付け】**単元ごとに必ずワークシートを設け、鑑賞文を提出させた。

下半期・次年度への改善点

・1・2年生は合唱コンクールの取り組みに時間をかけて取り組ませ、しっかりと発表させる機会を作りたい。
・タブレットを使用しての創作活動に興味を示す生徒が多いため、他の歌唱や器楽でも利用できるところは使っていきたい。新しいミュージックアプリも活用していく。
・器楽活動ではグループを組んで得手・不得手とする生徒が教え合い、共有できる場面を増やしていきたい。

大阪市立大和川中学校

（２）教科の重点⑥［美術］

目　標：	美術の表現活動と鑑賞活動を通して、身近な生活の中にある美しいもの、価値のあるものを感じ取る感性を育み、よりよいものを求めて自分なりの意味あるものとして表現していく態度の育成と準備力・創造力・集中力の定着を図る。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①　【基礎学力の定着】各学年、１年間で作品を３点制作させる。計画的に作品づくりを行い、準備力・創造力・集中力の定着を図る。	B	B
②　【言語力の育成】作品制作後のまとめや鑑賞レポートを作成させることで、美術的な感動を言語によって表現する力を養う。	B	
③　【個に応じた学習指導】生徒１人に対し、2 時間中に１回以上の助言や技術的指導を行い、制作中の作品に対するこだわりや悩みを細かく拾い上げる。	B	
④　【自主学習習慣の定着】作品制作を進める中で、生徒ごとに作品制作にかかる時間に時差が生じるため、各学年、各学期放課後の補習時間を設ける。	B	

現状と分析
①【基礎学力の定着】1 学年は授業規律の定着を心掛けたが、一部クラスで徹底することが出来ずに終わった。２学年は提出物の提出させるよう授業中の声掛けや躓きの汲み取りを増やすことで、少しずつ提出物を出す意欲を育てることができてきた。3 年は積み重ねた学習を卒業制作や課題で表現することができた。 ②【言語力の育成】作品ごとのレポートにも前向きに取り組む姿勢が伺えた。また作品発表の場を設け、解説や感想などを自身の言葉で表現する機会を設けた。 ③【個に応じた学習指導】後期は特に机間巡視に時間を取り、一人一人に対する技術指導や悩みをくみ取り、丁寧に指導を行うことを心掛けた。 ④【自主学習習慣の定着】各学年、それぞれのペースで自主的に学びに向かう姿勢が育めた。

次年度への改善点
前期から後期の改善点をいかし、引き続き丁寧な指導を行う。またそこから得たことを、教材研究や年間指導計画に落とし込み、3 年間の授業を積み重ね生徒自身がその力を感じられる授業づくりをする。また計画的に、より学校に沿ったものにしていく。

大阪市立大和川中学校

（２）教科の重点⑦〔保健体育〕

目　標：　授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【基礎学力の定着】 集団行動を徹底しておこなわせる。 各種目の特性やルールを理解させ、安全に学習を行う態度を身につけさせる。 毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。特に全身持久力と柔軟性が大阪市平均より劣るので、その能力を高める。	B	B
②【言語力の育成】 生徒同士で励ましたり、教えたりできる学習環境を整え、積極的に声をかけあえる学習を取り入れる。 集団や自分に適した課題解決のために、学習カードなどを用いて解決方法を考えさせ、生徒たちの前で発表させる時間を１時間に１回以上つくる。	B	
③【個に応じた学習指導】 習得技能に応じて課題を設定し学習に取り組ませる。	B	
④【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 体育委員と班長を中心に準備運動や用具の準備、片付けなど積極的に行わせる。 体力の保持増進のために基本的生活習慣を身につけさせる。	B	
⑤【体力向上の推進】 全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「シャトルラン」の項目を昨年度より２ポイント増加を目指す。（大阪市平均を上回る）	B	

現状と分析
・毎時、集団行動を徹底させることで、授業規律と安全に取り組む姿勢を高めることができている。 ・授業や体育大会を縦割り共習で実施することで２、３年生は上級生としての意識を育むことができた。 ・生徒同士で教え合いをしたり、先に学習したクラスが違うクラスに履修内容を伝えたりとグループワークは例年より充実していたと感じる。 ・全国体力運動能力調査で「長座体前屈」において、男子は全国平均を３ポイント下回り、大阪市平均を２ポイント下回る結果となった。しかし、「シャトルラン」においては、全国・大阪市平均を１５ポイント以上上回る結果となった。また、その他種目はすべて大阪市、全国平均を上回る結果だった。

下半期・次年度への改善点
・集団行動の徹底と実践がすべての教育活動に生かされるように次年度も実践していく。 ・体育と保健分野がうまく連携するような授業計画を練る。 ・リーダーやスモールリーダーをもっとたくさん作り、リーダーをした子どもたちが達成感を得ることができるような授業展開や声掛けを行うとともに、受け身になる生徒を減らす。 ・準備運動の意義や効果を伝え、正しい行動を行わせる必要がある。

大阪市立大和川中学校

２）教科の重点⑧〔技術・家庭〕

目　標：　授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①　【基礎学力の定着】 定期的な小テストを２回以上実施し、平均正答率を７０％以上にする。 振り返りのできるワークシートを活用し、知識の定着を図る。	B	B
②　【言語力の育成】 実習レポートまたは発表に年間３回以上取り組み、課題を解決するための考えや工夫を書かせることによって、言語力の育成を図る。	B	
③　【個に応じた学習指導】 実習時の新端末を取り入れた授業展開、生徒の様子を見ながら声掛等を行う。 定期的な班活動、必要に応じて補習を行う。	B	
④　【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 長期休暇中に課題を設定して、自主的な学習習慣の定着を図る。	B	

現状と分析
①振り返りシートなどを活用し、生徒の状態を個々に把握し、基礎基本の定着が行えた。 ②各学年レポート課題やそれを用いた発表を３回以上実施することができた。その中で課題解決に向けての考察力なども養うことができた。 ③ICT を取り入れた学習、班活動、実習など、さまざまな場面で活用でき、生徒の進捗状態に応じて個々の学習を進めることができた。 ④長期休暇だけでなく日々の中でも課題を設定し、学習した知識を活かす活動へとつながった。ただし、未提出者が無くなるよう、期日中に取り組む習慣を身につけさせる。

次年度への改善点
・生徒の興味関心に合わせた活動、話題を取り上げより身近な学習になるように努める。 ・定期テスト以外のこまめな確認テストを続け、基礎基本の定着を図る。そしてその知識を活かした実習を多く取り入れていく。 ・3 年生に関してはこれまでと同様、総合の時間を活用してより充実した実習を行わせる。

大阪市立大和川中学校

（２）教科の重点⑨〔英語〕

目　標：　授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①　【基礎学力の定着】授業の「基礎・基本」にあたる内容の確認を目的とした単元テストを定期的に行い、再テストで知識の定着をはかる。	B	B
②　【言語力の育成】英語によるアウトプットが多く取り入れられた授業を行うと共に、C-NET での Team Teaching による授業を年間 15 時間以上実施する。	A	
③　【個に応じた学習指導】個々の学習進度に対応するため、すららドリルを活用し、個別に理解度の把握に努める。また放課後に学習会を行いボトムアップを目指す。	B	
④　【自主学習習慣の定着・定期的な宿題の提示及び自学自習の確立への取組】すららドリルやプリントなどの課題を与え、授業内においてその課題への取り組みを確認する。取り組みが不十分な生徒に対する指導を行う。	B	
⑤　【小中連携】遠里小野小学校、山之内小学校の小学５・６年生に週１～２回、英語の授業を行い、小中連携を進めている。	A	

現状と分析
①毎単元、単元テストをし、再テストも行い知識の定着をはかった。 ②C-NET とのアウトプットの授業を積極的に取り入れた。 ③④英検の受検者のために一次と二次試験の学習会をし、個々の学習進度に対応した放課後の学習会も行った。その結果、英検受検者は３学年ともに増加傾向にあり、第２回は３年生全員受検を今年も実施し、多くの生徒が３級以上に合格した。そして、二次受検者はほとんどの生徒が合格している。また３年生で実施した GTEC では、A1 レベル（英検３級レベル）の生徒の割合が大阪市平均 55.8%、本校 78.6%で４技能すべての平均を大阪市を上回る成績を残すことができた。 ⑤今年度は週２回遠里小野小学校５，６年生、週１回山之内小学校６年生に英語の授業を行った。

下半期・次年度への改善点
・単元テストは継続していき、再テストも工夫し、多くの生徒が受けれるように改善する。 ・来年度も英検の３年生全員受検は行いたいが、第２回英検と GTEC の日程が近く、行事とも重なり、準備する期間が少なすぎたため、次年度はできるだけ重ならない時期に行いたい。 ・小学校へ行っているため、落ち着いて中学校の授業研究をすることができないことが多かった。

大阪市立大和川中学校

（３）生活指導部

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

<table>
<tr><th>取組内容（指標）</th><th colspan="2">達成状況</th></tr>
<tr><td rowspan="2">学力向上　④【　小中一貫教育の推進　】
９年間を通して、めざす子ども像「場に応じたあいさつがしっかりできる
児童・生徒を育てる」を目標に、教育内容を充実させる。</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="6">B</td></tr>
<tr><td>指標　連携行事（中１情報交換、体験学習、部活動体験学習）実施
教職員研修（道徳、ピア・サポート、メンター研修等）　2回
教員相互授業参観の実施　３回
定例の校長部会、教頭部会、職員部会の開催　年８回</td></tr>
<tr><td rowspan="2">道徳心　社会性の育成　②【　規範意識の向上　】
・「言葉づかいは心づかい」「元気よく・気持ちよく、あいさつしよう」の
実践。身だしなみを整え、生徒自らに『時間を守る』姿勢を身につけさせる。
・体罰根絶への指導体制を確立させ、生徒理解を深める研修会および相談活動の実施</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>指標　登校遅刻ゼロの達成
チャイム着席の定着
正しい服装の着こなしの徹底
生徒会中心による「学校生活充実のための討論会」の実施
生徒理解を深める「生徒指導研修会」実施　５月
生徒理解を深める「教育相談活動」　年２回　随時
体罰ゼロの教育活動を推進する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">道徳心　社会性の育成　④【　防災教育の推進　】
「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。防災減災マニュアルを策定する。</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>指標　火災、震災訓練の実施。地域別防災訓練。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">道徳心　社会性の育成　⑤【　不登校傾向生徒への対応　】
・生徒の状況把握を図り、全教職員で共通理解し、個別の具体的な手立てを講じる。日常的にカウンセリングを行い、生徒の心の変化を早期に把握する。
・生徒指導担当者を活用した、心のケアーが必要な生徒への別室対応の充実</td><td rowspan="2">B</td></tr>
</table>

指標　週１回　不登校傾向生徒の状況把握。改善方針の確認。 月１回　全教職員と状況把握。 カウンセリング週間の実施(年２回) 心のケアーが必要な生徒の学校生活保障		
健康　体力の保持増進　③【　健康に関する指導の推進　】 発達段階に応じた健康に関する指導を系統的に行う。	B	
指標　学級活動、保健体育、総合の時間を活用して、薬物、飲酒、喫煙に関する学習会を行う。(全学年３回)(外部指導者を含む)		

現状と分析
コロナ禍で行事の延期や縮小等を余儀なくされたが、例年と大きく変わることなく取り組みを実現することができている。 昨年度より生徒の指導案件は減少傾向にあるが、学校生活への慣れからか授業内で細かな指導が増えてきた。今後、事案が大きくなっていく可能性も十分にあるため、対策が必要と考える。 不登校生や登校後の入室が難しい生徒への対応などは、チャレンジルームや区役所と連携を取りながら継続していく。 また、学警連絡会の内容を全体共有する取り組みは今年度も引き続き行っている。
次年度への改善点
現状分析にもあるように、大きな生活指導の案件は減少傾向にあるが、小さなトラブルが増えてきている。生徒の学校や授業への慣れから起きている事案もあるため、授業規律・黙想・黙食・黙働清掃など、日々の活動での「凡事徹底」を全職員で共通して意識し、生徒を指導する必要がある。 また、次年度は年間計画に沿った定例の研修だけでなく、状況に応じて臨時研修(相談会)も実施していく。そのなかで、小さな悩みを共有し、具体的な解決策を共に考えていく体制を構築する。

大阪市立大和川中学校

（４）健康整備部

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

<table>
<tr><th>取組内容（指標）</th><th colspan="2">達成状況</th></tr>
<tr><td>① 健康・体力の保持増進
食に関する知識と食習慣を身につけるための教育活動を進める。</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="6">B</td></tr>
<tr><td>指標　食育通信の発行８回
小中連携した食育推進連絡を行う。（年２回）
長期休業中、食育調査を行う。</td></tr>
<tr><td>② 学校・家庭・地域の連携
学校・家庭・地域の繋がりを深めるために各関係諸機関と取り組みを進める。</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>指標　救急救命法（AED を含む）の講話を年一回実施する。
学校保健委員会の活動に参加する。</td></tr>
<tr><td>③ 感染症対策
免疫力を高めるために、基本的生活習慣を身につけさせる。
消毒作業の徹底、学習環境を整える。</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>指標　学年集会等で啓発活動を行う。
登校時の健康観察結果の確認、記録簿を管理し情報共有する。
1日1回以上消毒する場所と使用状況に応じて消毒する場所を分けてチェックリストに記録・管理する。</td></tr>
</table>

現状と分析

・毎月、保険だよりと一緒に食育通信を発行し、2 月現在 10 号を発行している。
・小中連携した食育推進連絡を行った。
・長期休暇中に家庭科と区役所と連携して、朝食を自炊する取り組みを行った。
・美化委員会の発表の場を前期より多く設け、感染症対策の啓発運動を行っている。
・毎日登校時に健康観察表で健康チェックをし、記録管理している。
・毎日消毒作業を徹底して行い、チェックリストに記録し、管理している。
・3 年生で外部講師による性教育、2 年生ではがん教育を行った。

次年度への改善点

・区役所、家庭科と連携した食育の取り組みについて、今後も食育展に出展していく。
・感染症対策の啓発運動、消毒作業、健康観察表での健康チェックを継続していく。
・地域清掃についてはコロナ禍においても 1･2 年生で取り組めたので、次年度は全学年で取り組むことを検討していく。
・大阪市立大学と連携して食生活のアンケートを実施したので、分析結果を今後の指導に活かす。
・消防署と連携した救急救命講習が実現できた。来年度も継続していく。
・新型コロナウイルスの対応が来年度から変更されるため、生徒主体の活動を考えていきたい。

大阪市立大和川中学校

（５）道徳委員会

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
道徳心・社会性の育成　①【　道徳教育の推進　】 道徳委員会を中心に年間指導計画を作成する。 生徒一人ひとりに、「自分の生き方を見つめ直し、多角的・多面的に物事を考えられる生き方ができるようにしていく」という課題設定で実践を行う。	B
指標　①道徳授業（年間３５時間の実践） ②原則、教科書による授業を実践し、授業終了後、生徒に感想シートを書かせることにより、生徒の理解度を把握する。 ③校内新転任道徳研修会実施	

現状と分析
①年間計画に沿って、各学年、時数に則った道徳授業を行った。 ②原則、教科書による授業を実践できており、感想シートも生徒に書かせ、心情が把握できている。授業内においても、ICT 機器を用いたり、ペアワークやグループワークを取り入れて、意見の共有を行いやすくするなどの工夫を行っている。また、導入で最初に、映像や写真で時代背景などを視覚的に見せることにより、読み物資料に入り込みやすく、主題を深く考えることができるような工夫も行っている。 ③4月に校内新転任道徳研修、7月に道徳研究授業・研究協議を実施。

次年度への改善点
・どの先生が授業を行っても、「気づき１」から考えを深め、「気づき２」で考えを発展させられるよう、しっかり教材研究や校内研修を行える体制を整える。 ・道徳の授業の充実に向け、それぞれの先生方が資料を深める授業の工夫が行うことができるよう、道徳委員会が中心となって、よりよい授業づくりができる体制を整え、進めていく。 ・新任の先生方が増えていくことも踏まえ、道徳授業の進め方をマニュアル動画を作成するなどして、いつでも参考にすることのできる資料作りも行っていく。

大阪市立大和川中学校

（６）進路委員会

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
道徳心　社会性の育成　③【　キャリア教育の推進　】 キャリア教育年間計画に沿って、系統立てた教育内容を推進する。	B
指標 職業講話（１年）職業体験（２年）高校出前授業体験（３年）	

現状と分析
１年生　５月には、自分の適性・向いている職業を知り、将来の夢や希望を考えるきっかけづくりとした。７月には様々な職業が存在することを知るためのグループワークを行い、夏季休業中には職業調べを通じてさらに関心を高めるようにした。１月には職業講話にむけて、改めて職業について調べ、コラボノートを利用して新聞の形にまとめたものを掲示し共有できるようにした。職業講話では講話や体験を通じて興味や関心を高め、今後の自分を考える機会となった。 ２年生　７月に職業講話にて職業について学んだ。事前・事後のグループワークを通し、多くの職業の話を共有することで職業に対する関心を深めた。１２月には職業体験を実施し、実際に現場で働く体験を通して、仕事や働くこと、社会について学習し、自分の将来に関して、より具体的に考えられる機会となった。 ３年生　７月に高校による出前授業を行い、進路への関心を高める機会になった。１１月後半には興國高校に面接講座をしていただき、より現実的な内容でいい経験となった。３回校長面談を行い、自分と向き合い、具体的に進路を考える機会となった。

下半期・次年度への改善点
◇引き続き外部講師による講話や体験などを有効活用していく。 ◇生徒が興味・関心を持っている業種等を把握し、将来に希望を持てるような職業講話、職業体験となるよう準備を進め、その活用についても工夫していく。 ◇「キャリアパスポート」については、各学期の節目に振り返りを行い、それを次に活かしていけるよう、引き続き活用を図っていく。

大阪市立大和川中学校

（７）教育課題検討委員会

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
課題の把握と解決 ・学校の現状を把握するとともに課題を検討し、それらの解決に向けて取り組む。 指標　週１回の主任会 生徒および教職員アンケートの実施 カリキュラムの編成 年間行事予定作成に向けた検討	B

現状と分析
指標については、教職員アンケート以外はすべて達成した。今後要望があれば実施する。 次年度年間行事の予定は立ったが、今後も各分掌から協力を得ながら改善していきたい。

次年度への改善点
前年度に比べて早い段階で年間行事予定やカリキュラムを決定できた。次年度についても、年度末には次年度の準備が進められるよう、余裕をもって進める。 全職員でアンケート結果をもとに個人や学校全体の課題の発見に取り組み、活発な意見交換をおこなうことが必要。

大阪市立大和川中学校

（８）特別支援教育の重点

目　標：	社会的な自立能力向上のため、各関係機関との連携をより強化し、 「個別の教育支援・指導計画」をさらに充実させ、時間割もより一層工夫したい。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①　【個に応じた学習指導・基礎学力の定着】 生徒一人一人の障がいや発達段階、学力に応じた学習課題を厳選して設定し、　それらを毎時間見直して、基礎的な知識・理解・技能等を伸ばし、生活に活かせる力をつける。	B	B
②　【基本的生活習慣の確立・健康な生活習慣】 基本的な生活習慣と生活態度をより一層育て，健康で楽しい学校生活が安心して送れるようにする。	B	
③　【社会参加促進】 集団活動に参加しようとする意欲を養い，好ましい人間関係を育てる。	B	
④　【個別の教育支援・指導計画について】 保護者の１００％参画を促し、計画の内容について保護者の意見を十分に聞いて計画する。「個別の指導計画」に基づく指導を実施し、中間評価・最終評価を行う。 スキップでの「個別指導の記録」の内容を充実させ、それらを全教職員で共有し、個別の支援・指導に活かす	B	
⑤　【研修について】 全教職員への特別支援教育研修を、年間１回以上実施するとともに、障がいに対する知識・理解の促進、啓発を行っていく。 特別支援教育委員会・職員会議等で、毎月１回情報交換をする。	B	

結果と分析

① 生徒個々の能力に応じた支援・指導で、学校生活における基本的生活習慣・態度が養われ、登校できなかった生徒も、少しずつ登校し定期テストを受けられるようになってきた。
② ③泊を伴う校外活動や体育大会や文化発表会などの学校行事を経験することで、通常学級の生徒とも関わる機会があり、仲間と協力して自分らしさを発揮することができ、自立へ向けて成長できた。
④ 「個別指導の記録」を策定し全職員に公開することで、生徒の情報共有を行うことができた。
⑤ 毎月の職員会議では、特別支援学級からの必要な情報を全教職員に発信することができた。

下半期・次年度への改善点

① 時間割を工夫し、個別に対応できる時間を多く作り、基礎学力の定着を図っていきたい。
② 通常学級担任・保護者や関係諸機関との連携を図り、長欠生徒や教室に入れない生徒に対しては、一緒に改善策を検討し、粘り強く対応していきたい。
③ 校外活動では、電車の利用や切符の買い方、新しい環境の中での友達との関わりなど、「自立」に向けて社会参加を積極的に行っていきたい。また、作業学習や園芸では、何をやるか工程が分かり、自分でできること増やす経験を多く作っていきたい。
④ 校務支援パソコンを活用し、個別の支援情報を閲覧することで全職員が共通理解を行ようにしていきたい。

（９）ICT 委員会

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが、目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

<table>
<tr><th colspan="2">取組内容（指標）</th><th colspan="2">達成状況</th></tr>
<tr><td colspan="2">①ICT 活用の推進
・新しい機器やソフトが滞りなく導入できるように、必要な研修を適宜行う。
・ICT 活用の研究を行う。</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="4">B</td></tr>
<tr><td>指標　ICT 研修の実施、ICT 活用能力の向上</td></tr>
<tr><td colspan="2">②機器管理
・管理台帳の作成と機器の保守点検を行う。</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>指標　機器管理台帳の更新、運用</td></tr>
<tr><td colspan="4">現状と分析</td></tr>
<tr><td colspan="4">①必要な研修を行うことができており、新機能の導入に合わせて、研修を行った。

②生徒用 1 台端末と使用者との紐づけを進めているところである。教師用情報利用パソコンについては台帳の作成をし、情報機器についても作成を行った。</td></tr>
<tr><td colspan="4">次年度への改善点</td></tr>
<tr><td colspan="4">①授業内外での ICT の活用についての研究を進めるとともに、研修への参加や他校との情報交換を通して、学校全体で ICT 活用能力のより一層の向上を目指す。

②必要な機器は回収し、管理できる環境を整えていく。今年度作成した台帳を基に機器管理をしていく。また、定期的な保守点検および確認を行っていく。</td></tr>
</table>